

# 写真で語ろう、自分の世界

テーマ

「まじきの桜」(町内の桜をテーマにしたもの)

応募期間

平成24年3月15日～4月30日

応募条件

- ・ 町内であれば、どこのも対象とします。
- ・ 1人3点まで応募出来ます。(町外の人でも可)
- ・ 作品は未発表のものに限ります。
- ・ 合成加工作品は不可です。
- ・ 人物が写った作品は、被写体の承諾を得た上で応募してください。

サイズ

- ・ 四切または四切ワイド(カラー)
- ・ デジタルカメラでの撮影の場合も、このサイズにプリントして応募してください。

応募方法

- ・ 写真の題名、撮影日、撮影場所、氏名、年齢、住所、電話番号を明記のうえ、役場企画財政課までお持ちください。
- ・ ※郵送の場合は4月30日までに必着のこと(郵送中の事故には一切責任を負いかねます)

その他

- ・ 審査結果は、入賞者にのみ連絡します。
- ・ 作品は後日、ミナテラスに展示します。
- ・ 応募作品は益城町に帰属し、返却しません。

問い合わせ先

役場企画財政課 商工観光係  
☎286・3111  
内線234

# 「桜」写真コンテスト。

## ふるまきの地名漫歩

## 歴史の変遷と地名

343

### 飯田山常楽寺③

常楽寺まで二十五町(2.7km)とされるので、25体の石仏があつた計算になります。現在は藪の中や土中に埋没したりまた、盗まれたりしてあまり残っていません。よく一丁地蔵と言われますが地蔵以外の仏像がいくつか残りますから、実際は十三仏を順々に安置したのかもしれない。現在残された石仏は全部が法力(仏法の威力)を現わす法具(例えば地蔵の錫杖などの持ち物)や頭部が破壊されています。

この石仏の破壊は明治2年(1869年)明治新政府の神仏分離令に基づき「廃仏毀釈」による仏像廃棄の傷跡です。

今から50年前の昭和35年飯田村での聞き取り調査で、明治30年代生まれの古老の話にその人は父親から聞いたとして「維新後熊本から若侍達が手に玄能を持ち、一丁地蔵を散々に破壊したのを目の当たりにした。維新による武士階級の没落に自棄になった若侍の暴行と

思った」そうですが、実は石仏の法具を破壊すれば単なる石塊になるとされ、そのことを十分理解しての破壊でいゆる確信犯です。常楽寺をはじめ全国の寺院を巡る新時代に翻弄された一例です。

もし一丁地蔵の建立が六地蔵の嘉永2年(1849年)以後か同時と仮定すれば、一丁地蔵はわずか20年前後の薄命でした。

常楽寺は正式には「大聖院飯田山常楽寺」といいます。このように山名と寺院名が基本的には山岳寺院であり、平安仏経の中心は最澄と空海であり、そのための山岳寺院が最澄の高野山金剛峯寺が初期山岳寺院とされています。

益城町文化財を訪ねる会

会長 松野國策



廃仏毀釈による破壊された一丁地蔵